

体育祭に寄せて

県立須磨友が丘高等学校
校長 川崎芳徳

皆さん、いよいよ体育祭です。今年度も、未だ終息を見ないコロナ禍の影響を受け、従来どおりの内容で開催することはできない状況です。しかし、皆さんの知恵を結集し、工夫しながら大会を開催できますこと、まさに「知・考・行」の取組を、大変頼もしく、そして嬉しく思っています。

さて、今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。世界中から、人種の違う、肌の色の違う、髪の色が違う、言語の違う、文化の違う、宗教の違う、そして、腕が無い、脚が無い、目が不自由、耳が不自由などなど、様々、多種多様な個性やバックグラウンドを持つ人々が集い、スポーツの共通のルールの下、鍛え上げられた精神と肉体がぶつかり合いました。

試合が終わればノーサイド、勝ち負けを越えて、互いに深い敬意を払い、健闘を讃え合う姿に、スポーツの素晴らしさとともに、多様性を尊重し、ともに力を合わせて生活する共生社会の実現に向け、私たちはどのように生きていかなければならないのかを教えられました。

今日は、これまで、生徒会を中心に多くの時間とエネルギーをかけて準備してきた体育祭に、「する」「みる」「ささえる」、それぞれの立場・場面で、悔いの残らぬよう、持てる力を存分に発揮してください。

本大会が、友高生の“結束力”、そして一人一人の“総合的人間力”をさらに向上させるとともに、ご観覧の皆様は友高生の“輝き”に触れていただくことで、少しでも元気と勇気を与えられる機会となりますよう祈念しています。

終わりに、早朝よりお越しいただいています保護者の皆様には、入場制限にご理解、ご協力いただいていますこと、深く感謝申し上げます。

育友会をはじめ、体育祭の開催にあたりご尽力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます、挨拶とします。